

赤字ハコモノでさいたま市の福祉があぶない!

ストップ赤字ハコモノ

川村準

Q&A

南区内の市民の方々から、川村準の政治理念や政策についてご質問を頂きました。

Q 市の財政状況

さいたま市は赤字のハコモノに大盤振る舞いで、これからの財政状況は大丈夫なのでしょうか？(72歳女性)

A

おっしゃる通りで、今後の人口減少や赤字ハコモノを作ること、市民の福祉政策の拡充に回せる金額が圧迫されます。このような状況にもかかわらず赤字ハコモノに反対する議員がいないので、私は政治活動を行っています。



Q 高齢者向け対策

あなたは若いが、医療や介護など高齢者福祉についての考えを聞かせて欲しい。(70歳男性)

A

さいたま市は、毎年市民の意識調査を行っています。2014年度調査では、市民のニーズが最も高かったのが「**高齢者福祉の充実**」です。そして、「**子育て支援**」、「**防災**」と続きます。私も、このような市民生活に直結するテーマの政策を重要視しています。まず医療ですが、さいたま市の医師・看護師数は、政令指定都市の中で**ワースト1位**と最低水準です。今後ワースト1位返上のため、いかに医師にとって働きやすい環境を整えるかが問われています。また、南区は坂がある地域も多く、高齢者の移動や買い物を助けるために、コミュニティバスを巡回させるなどの政策を拡大する必要があります。



介護は、現時点で介護施設が南区内に少なく、たらいまわしの結果、さいたま市外の介護施設を利用される方も多数います。今後は高齢の方が増えますので、市が支出する介護施設の建設費用が、さらに膨れ上がる可能性が高く、そのためにも赤字ハコモノを建設する余裕はありません。

Q 保育所の待機児童

さいたま市は、待機児童で一時期話題になりましたが、今は大丈夫なのでしょうか？(30歳女性)

A

さいたま市の人口当たり保育所の定員数は政令指定都市**ワースト1位**です。さいたま市は平成27年度の一次選考終了時点の待機児童数は2084人で、南区は最多の451人と、多くの待機児童を抱えており、2017年までに待機児童ゼロを目指して予算を増やしています。しかし問題は、本当は働きたいけれど、保育所がないから諦めた「潜在的な待機児童の数」が、この統計には含まれていないことです。市は「潜在的な待機児童のゼロ」を目指して動くべきです。多くのご父兄の方に話を伺って私が感じたことは、子育てで問題となるのは、子育ての大変さと、子育て費用の問題です。それらを解決するために、保育園の待機児童解消だけでなく、**南区内でわずか7施設しか実施していない、一時預かり保育を増やして育児の負担を軽減します。**



放課後児童クラブの待機児童数も、政令指定都市でワースト1位です。放課後児童クラブに、年間約20億円支出している市の補助金を、赤字ハコモノを造らないことでもっと充実させ、どんな所得の家庭でも、子どもを育てられる環境を整えます。

Q 政務活動費

あなたの主張する政務活動費の廃止は、議員としてのやるべき仕事が縮小されるということになりませんか？(40歳男性)

A

それは違います。さいたま市は合併して政令指定都市になった時に、議員報酬を3割、政務活動費は7割上げました。そのため、さいたま市の議員は議員報酬を年間1,300万円ほど受け取っており、それに加えて、政務活動費を年間408万円貰っています。しかし、それ以前は議員報酬、政務活動費を合わせて1,300万円ほどの金額で議員はやりくりしていたことから、政務活動費を廃止して議員報酬のみで活動することは可能です。もしも私が市議であったなら、**政務活動費は一切受け取りません。**



Q なぜ無所属なのか

無所属でまだ若いあなたでは、議員になっても何もできないのでは？(56歳男性)

A

それは違います。私が、政務活動費の不適切な使用を訴えたことで、さいたま市議会で切手の購入が禁止になるなど、政務活動費の使用が厳格化されました。それに加えて、川村準は文字通りの本当の無所属で、何の組織もしがらみもございません。協会団体組合等の支持母体もございません。**しがらみなしの無所属だからこそ、現職市議と異なり市民のための政策を、堂々と主張してまいります。**



川村準とさいたま市議会会派の政策比較表

○賛成 ×反対

	自民党	民主党	公明党	改革フォーラム	共産党	川村準
大宮盆栽美術館	○	○	○	○	○	×
岩槻人形会館	○	○	○	○	○	×
埼玉高速鉄道の延伸	○	○	○	○	○	×
下水道料金の値下げ	×	×	×	×	○	○
政務活動費の廃止	×	×	×	×	×	○
福祉の充実	○	○	○	○	○	○

結論

福祉の充実はどの会派も賛成しています。大宮盆栽美術館、岩槻人形会館、埼玉高速鉄道の延伸といった赤字ハコモノは、全ての現職市議が賛成しており、**反対しているのは川村だけです。**

川村準のその他の政策重点テーマ



教育環境の充実



35人学級の維持を提言します。市独自の財源で、年間およそ2億円あれば、国が40人学級を要求しても、35人学級を維持できます。

主要道路の整備



市は、幹線道路の整備率が47%で政令指定都市でワースト1位。道路整備は、必須の社会インフラです。

奨学金貸付を給付制度に改革



奨学金を貸すから与える制度への改革を目指し、0歳児保育から大学進学まで、切れ目ない子育て支援を行います。

下水道料金の値下げ実現



市は2014年7月、下水道料金を値上げしましたが、下水道事業の赤字額は、水道事業の44億円の黒字で補えます。

公園面積の拡充



災害時に必要な広域避難場所は、南区内に浦和競馬場しかありません。より多くの防災エリアや公園が必要です。

図書館と文教都市・浦和



南区東部には図書館がないため、図書館を新設し、文教都市「浦和」に恥じない教育環境をつくれます。

駅のバリアフリー化



南浦和駅にエレベーターを設置、武蔵浦和駅にはエスカレーターを設置するなど、利用しやすい駅空間をつくれます。